

2020年第2四半期決算説明会における主な質疑応答

(2020年7月31日(金)、電話会議)

- Q 1. 第2四半期が第1四半期と比べて売上高が約144億円減少しているのに対して、営業利益が数億円しか減少していない理由を教えてください。
- A 1. 1つは、原燃料費の減少が挙げられます。薄型パネルディスプレイ（FPD）用ガラスの生産性改善も進みました。設備の改善工事も先送りにしたものもあります。これらの工事費用については下期に出る部分もありますし、来年度に先送りされるものもあります。
- 製品別では、FPD用ガラスの利益率は全社平均より高い水準です。光関連・電子デバイス用ガラスは20%以上の利益率を維持しています。ガラスファイバは日本とマレーシアは利益が出ていますが、欧米拠点の損が上回り全体としてマイナスになっている状況です。
- Q 2. 下期の営業利益が上期実績と比べて少ない理由を教えてください。
- A 2. 下期は、上期から先延ばししていた修繕等の工事を予定しているものもあり費用が膨らむものと考えています。また、研究開発も増加する見込みです。
- Q 3. FPD用ガラスの生産性改善によってどの程度の利益貢献があったのか。
- A 3. 非常に品位の高いガラスを効率よく溶融、成形できるようになったものです。これにより不良が少なくなり生産効率が上がります。今後、この技術を横展開していく予定です。
- Q 4. 最近、製品開発に関するプレスリリースを多く出しているが、新製品が収益に寄与する時期を教えてください。また、コロナウイルス関連で需要が期待できる医療分野での今後の見通しを教えてください。
- A 4. 新製品はできるだけ早期に上市したいが、サンプル出荷を進めているところで、まだ具体的な販売見込みは持っていません。医薬用管ガラスは、今年11月にマレーシア子会社で能力増強を予定しています。第4四半期から収益貢献してくれると考えています。
- Q 5. 原油価格の前提はどのようにみているのか。
- A 5. 上期と比べると下期も多少は下がるように見ているが、原燃料コストには半年程度遅れて効いてくるものと考えています。
- Q 6. ガラスファイバの稼働率が低下している一方で、FPD用ガラスは来年、中国（廈門）で能力増強を予定している。会社全体の収益構造が変わってきているのか。
- A 6. これまで、FPD用ガラスとガラスファイバの事業規模は同程度にしていきたいと考えてきましたが、足下ではFPD用ガラスの依存度が少し上がっています。ただ、ガラスファイバは基礎素材であるため、少し時間はかかるかもしれませんが、マーケットの回復に応じて販売も回復していくものと考えています。

Q 7. 第 1 四半期末と比べると第 2 四半期末では在庫が増えているが内訳を教えてください。また、ガラスファイバの減産率を教えてください。

A 7. ガラスファイバは、年初、約 2 割の減産継続と考えていましたが、第 2 四半期からは全体で約 4 割の減産を行っています。第 2 四半期ではガラスファイバと耐熱ガラス等の在庫が増えています。ガラスファイバの減産率は、年内は約 4 割を継続するものと考えており、更なる減産は考えていません。

Q 8. 足元で自動車生産は回復してきているが、ガラスファイバの稼働率は回復しないのか。

A 8. 当社の製品はサプライチェーンの中でも一番川上にいます。サプライチェーンの間でどれだけ在庫が溜まっているかを把握するのは難しいですが、需要回復には 2、3 か月のタイムラグがあるように理解しています。ガラスファイバについては第 2 四半期を底に需要は緩やかに回復してくるものと考えています。

Q 9. 第 2 四半期を底にガラスファイバの販売は回復してくるとのことだが、利益も増える見込みか。

A 9. 販売は増えますが、稼働調整が継続しているため利益は出にくい状況です。

Q 10. 本年度の設備投資額はどれぐらいになるのか。

A 10. コロナウイルス感染症の影響で、工事の着工時期や設備の稼働開始時期を正確に見通せないものもあるが、全体的に後ろ倒しになるため、当初予定の 260 億円を下回る見込みです。

Q 11. 本年度の年間配当金は 1 株あたり 100 円と前年度据え置きの見込みだが、中長期的な配当方針を教えてください。

A 11. 当社は、株主の皆さまには配当で報いたいと考えています。今後も安定配当を継続する方針です。

※このメモは、投資家の皆様へのご参考として掲載するものです。

※このメモは、説明会における質疑応答の一字一句を全て書き起こしたものでなく、弊社の判断で簡潔にまとめさせていただいておりますので、ご了承ください。

※このメモには、将来の弊社の業績や弊社を取り巻く業界の環境に対する予想が掲載されています。これらは弊社グループが開示時点で入手可能な情報に基づく判断によるものであり、リスクや不確実性を含んでいます。また、このメモの内容の完全性・正確性を会社として保証するものではありません。